

# 5月1日「読売新聞(朝刊)」27面にワクチンバスが掲載されました。

【記事内容】「車内を改装すれば、高齢者の多い過疎地などを巡る『動く接種会場』になります」。バス会社「アイビーエス」(東京都港区)の総務人事部課長、中山紀之さん(45)は、こう説明した。準備しているのは、車いすで乗車できる車両など。前方の座席で問診票に記入し、スペースがある中央部でワクチンを打った後、後部へ移動し、気分が悪くなれば横になることもできる。各座席には、飛沫防止のアクリル板も取り付けた。同社は約40台のバスを所有するが、旅行需要が激減し、今年1~2月の売り上げは前年比で9割減った。今春に予定されていた遠足や修学旅行も、中止や延期が相次いだ。2月以降、関東地方の複数の自治体から、バスの利用料などの問い合わせを受ける。交通の便が悪い地域が多い。中山さんは「維持費や車庫代がかさむので、バスを稼働させたい。ワクチンの供給が増えれば、出番が来るはず」と期待する。バスを使ったワクチン接種は、米国やフランスで始まっている。国も利用者が減っているバスを会場として活用するため、必要な手続きを簡素化。同社以外にも、都内や千葉県の子会社がバスを改装し、自治体に利用を促している。

